

香川県におけるハザードマップ有効活用のための防災意識調査 -香川高等専門学校建設環境工学科を対象として-

香川高等専門学校 学生会員 ○藤井 愛彦
香川高等専門学校 正会員 渡辺 一也
香川高等専門学校 小林 史

1. はじめに

我が国は自然災害の発生リスクが高く、災害被害低減を目的としてハードとソフトの両面から対策を行っている。しかし、ハードを利用した防災技術は、予算面の問題からあまり整備が進んでいないのが現状である。そのため、ハザードマップや情報伝達などのソフト防災を用い、被害低減を図ることは防災上非常に重要な手段である。

そこで本研究では、人々のハザードマップに対する理解度や思考、災害・防災意識のアンケート調査¹⁾を実施し、今後のハザードマップの有効活用と防災意識のあり方について検討を行った。

2. アンケート調査の概要

調査対象者は、香川高等専門学校・高松キャンパスの建設環境工学科の1年生(40人)、2年生(32人)、3年生(35人)、4年生(40人)、5年生(28人)と専攻科の1年生(6人)、2年生(4人)の学生計185人である。調査は各クラスにアンケートを配布・回収した。調査内容は、ハザードマップ(9)、災害意識(3)、防災意識(5)、ボランティア活動(2)、個人データ(5)の5つの区分に対し、それぞれ()内に示した数の設問を設け、徳島大学で行われた防災意識調査²⁾を参考に作成した。回収率は97.8%であった。本研究では、各項目に対して無効票を除いたものを有効回答とした。

3. アンケート調査の結果

3.1 ハザードマップに関する調査結果

各学年のハザードマップ認知状況、閲覧状況、保管状況を図-1に示す。図-1より、ハザードマップを「知っている」という学生は、高学年(4, 5, 専攻科1, 2年)が74%, 低学年(1, 2, 3年)が27%と学年が上がることで増加している。また、「見たことがある」という学生も学年が上がるにつれて増加していた。これは、学年が上がるとともに土木の専門知識が身に付いたことによるものと考えられる。

次に、ハザードマップの重要性を図-2に示す。図-2

より、「ハザードマップは役立つ」という学生は、高学年が76%, 低学年が60%, 全体で67%となり、多くの学生がハザードマップは重要であると認識していた。しかし、図-1, 2よりハザードマップの重要性は認識されつつもハザードマップを「現在自宅にある」という学生は全体で5%とかなり少ない状況となっており、災害時に活用できない可能性があることが分かった。

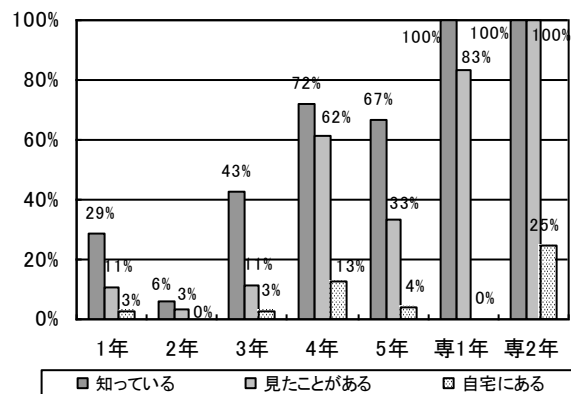


図-1 ハザードマップについて

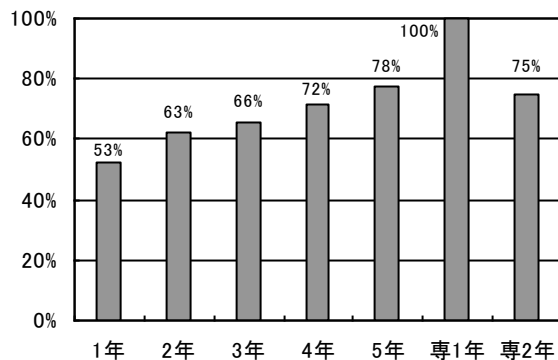


図-2 ハザードマップの重要性

3.2 ハザードマップの普及方法

ハザードマップの閲覧、普及方法について検討するために「閲覧経験がある」という学生(51人)に対して、閲覧方法を尋ねた結果、「行政からの情報」は9人、「インターネット」は8人となった。この中で最も多かったのは、「掲示されたものを見た」で25人となり、約半数の学生が掲示物を通じてハザードマップを閲覧したことが分かった。

次に、学生が考える最適なハザードマップ普及方法

について尋ねた結果を図-3に示す。図-3より「行政の広報活動」とした学生は全体で5%、高学年に至っては1%であった。また、「インターネットでの公表」とした学生も全体で8%という低い結果となった。一方で、「学校で授業を行う」とした学生は13%、「テレビなどのマスメディアを使用する」とした学生は34%と高い結果となった。このことより、ハザードマップを自発的に見る人は少なく、見せる機会を増やすことが重要である。そのため、今後は現在行われているハザードマップの公表方法よりもマスメディアや学校の授業を用いるなどの新しいハザードマップの普及方法を検討する必要があると考えられる。

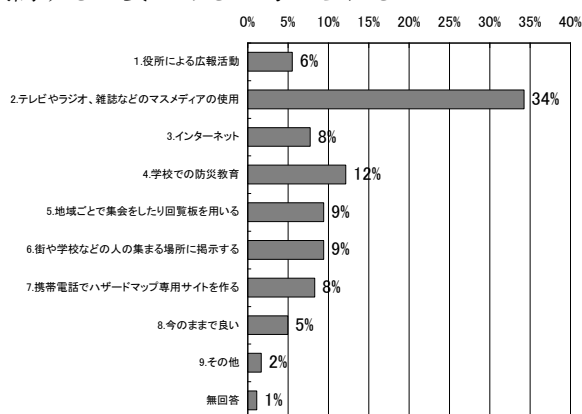


図-3 最適なハザードマップ普及方法

3.3 災害・防災意識に関する徳島大学との比較結果

次に、徳島大学と香川高専の災害・防災意識の比較を行った。まず、過去に受けた災害の被害の程度を図-4に示す。図-4より、香川県出身者が多い香川高専では「ライフライン被害」が32%と高くなっている。これは、香川県で多く発生している渇水被害による断水などを経験したためと推察できる。一方、徳島大学は「親族にけが人・死人」が19%、「自宅が全半壊」が14%と高くなっている。これは、徳島大学の学生のうち兵庫県・大阪府の出身者が全体の25%であることから「兵庫県南部地震」を経験したためと考えられる。

続いて、防災対策の実施度合を図-5に示す。図-5より、避難用非常袋の準備など何らかの防災対策を行っているという学生は香川高専で31%、徳島大学で60%であった。同様に、防災訓練の重要性を図-6に示す。図-6より、「防災訓練は役立つ」という学生は、香川高専が67%、徳島大学が81%となった。これは、徳島大学の結果が「親族に死傷者」、「自宅が全半壊」の被害経験者が多いことから、普段から防災対策を行っているとともに高い防災意識を持っている学生が多い

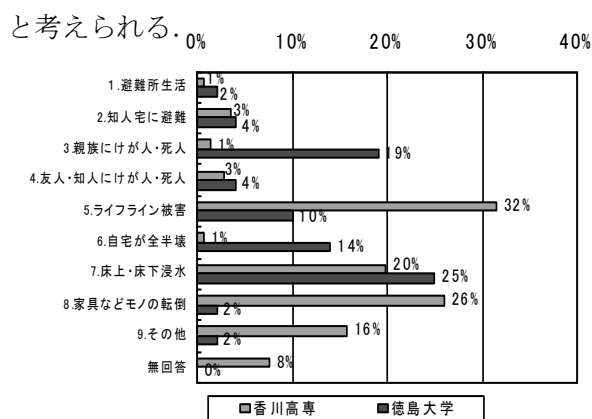


図-4 被害の程度

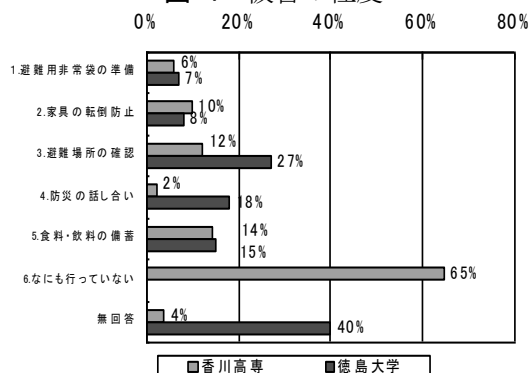


図-5 防災対策の実施度合

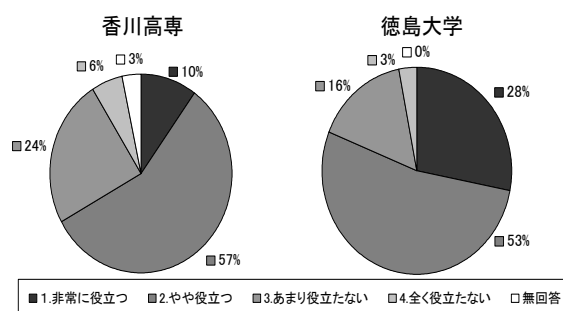


図-6 防災訓練の重要性

4. おわりに

本研究では、香川高等専門学校・高松キャンパスの建設環境工学科の学生を対象としてハザードマップと災害・防災に関するアンケート調査を行った。その結果、若年層におけるハザードマップへの理解度や思考、災害・防災意識の現状が明らかとなった。本研究における成果は、今後のハザードマップの有効活用や人々の防災意識の向上のために有効であると考えられる。

謝辞：本研究を行うにあたり、香川高等専門学校・高松キャンパス建設環境工学科の協力を得た。ここに記し謝意を表する。

参考文献

- 1) 酒井 隆：アンケート調査と統計解析がわかる本，日本能率協会マネジメントセンター，285p．2003.
- 2) 黒崎ひろみ・中野 晋・小川広樹・岡部健士・村上仁士：2006年度工学部新入生を対象とした防災教育の実施と防災意識調査，大学教育研究ジャーナル第4号，pp.15-21，2007.